

青の洞門戸田、以上熱演のあと附近の料亭京みやこに赴きビールで乾盃、食事を共にして八時散会した。

三位研修同志会六月例会

六月十二日(日)昼三鷹市公会堂。門琵琶・伴流謡切連弾・山崎錦幽、伊集院鼓城、坂本錦道、龜山山皇、清水源城、本能寺、錦幽、城山、杉山旗水、旅順懷古、中村晃憲、薄陽江、八束一峰、義経八雲飛、山本隆水、台湾入、田戸桜丸、龜山(古歌)、一鼓城、威海衛、錦道、吉野落、西村嵩峻。尚七、八両月は暑中休会とし九月から再開する事に一決した。

日本芸術琵琶会、旭登会六月例会

六月十九日(日)昼東京西新宿柏ビル六階。お江戸日本橋・門琵琶・伴流西田風謡切第五弾法、山崎錦幽、小曲隆盛、同、船弁慶、山本隆水、景清、高田登水、安宅、若宮旭登、五條橋、橋本草水、城山、杉山旗水、茨木、長谷川錦舟、白虎隊、来賓若水桜松、赤穂の早討、平田旭舟、設楽、原、青木草水、朗読長柄の秋、雨宮映月。以上研修のあと小宴散会。

大鳥神社富満まつりに琵琶演奏

六月十九日(日)昼大阪堺市の同神社で盛大な菖蒲祭りが行われ大阪琵琶同好会の協賛による諸芸大会が賑やかに催された。神崎与五郎、光旭仙、石童丸、沢田旭常、城山、作花旭友、赤垣源蔵、矢野旭信、月に徳ぶ、故郷心、別所、青山、鈴木、伏見の吹雪、辻旭城、姫ゆりの塔、石橋旭嶺、桶正成、田中敷水、粟津の露、天津八千代。外に伝統芸能数番。

四絃富士会琵琶詩吟大会

六月二十五日(出)昼横須賀市文化会館中ホール。

ル。石童丸、前田秋声、鉢の木、大坪錦勝、吉野の奥、下村錦鶴、小栗栖、今井旭柳、ケ岡舞扇、若藤旭色、白虎隊、瀬谷香水、壇の浦、若林旭洋、姫百合の塔、土橋虎水、三浦詩情、武山不動賛歌、舞二、尺八、吟四、琵琶土橋虎水、富樫の涙、石井桑水、川中島、一斉藤殊水、采崎統水、城山、山田幻水。外に詩吟七題。

薩摩琵琶各派女流演奏会

七月三日(日)昼東京新宿洲鳳会館、事務所都錦穂女史方。売花翁、磯崎凌精、重衡、遠藤穂泉、曲垣平九郎、大場穂苑、城山、仲川秀邦、井伊大老、三門葉水、敦盛、村木桜柳、新曲本能寺、本庄宵水、細川血達、三木絃、新撰組、都錦穂、白虎隊、一斉藤殊水、小野訓導、前田洲月。

第一九六回晴風夏季例会

七月十二日(火)夕六時東京京並区高円寺会館。主浅野晴風氏。雪晴れ、大田尾青桜、俊寛、下、中山青礼、諸遊清風、仁科信盛、岩崎竜風、噫、甲田山、竹内寿風、道成寺、山口嶮水、坂崎出羽守、福島脹水、羅生門、会友山崎典水、本能寺、大関英子、鉢の木、高田登水、秋海棠、杉山雅俊、竜の口、山下晴楓、巖流島、助演佐藤采水。

第八回関西錦心流新進演奏会

七月十七日(日)昼大阪朝陽会館、主催小川吟水氏。会員会友十二曲の外前田秋声、平井春嶺、阿部勝水、尾山好水、内田欽水、中山鳳水、六氏ゲスト出演。(次号詳報)

祇園祭協賛各派琵琶奉納演奏会

七月二十三日(夕)夕五時京都祇園八坂神社能楽殿、主催京都琵琶協会。(次号詳報)

ラヂオ、テレビで琵琶放送
●六月二十六日(日)十四時から約一時間に巨りNHKラヂオ「邦楽鑑賞会」で金田一春彦博士の解説により藤巻旭鴻氏の筑前、対王丸、実演の外レコードによる薩摩、薄陽江、吉水錦翁、錦心流、白虎隊、雨宮薫水、両氏の放送があり各流派の特長が披露された。
●七月二日(出)朝八時NHKテレビ「二〇二で名古屋井野川幸次氏が平家琵琶、那須与市」の一節を演奏のあと対談があった。

予告

○京都琵琶協会八月定例茶話会 八月七日(日)昼一時会員田中鵬水氏宅(京都市南区西大路八條西入上ル、電話三三三〇三三〇三五一番)I市電西大路八條下車。
○琵琶三美会ゆかた会 八月二十八日(日)正午京都東山安井金比羅宮会館、会主矢吹旭美津女史。会員の外梅原旭濤、平井春嶺、馬場鴨水、広島菊地旭蘭各氏ゲスト出演。

暑中御見舞申し上げます

盛夏

植村 真水

昭和五十二年八月一日発行(非売品)
編集者 植村 真水
発行所 高槻市津之江北町一ノ二番
電話 〇七二六(七三三六)〇五一番

琵琶

京

結

第二七八号 京 絃 社

西南戦争百年と現代 (三)
— 西郷から主導権奪う —



田中 彰

明治四年十一月、ときの政府の実力者、岩倉具視・木戸孝允・大久保利道らを含む約五十名の米欧回覧使節団を横浜に見送っての帰途、西郷隆盛が「もしあの船が沈没したら日本はかえって幸せかも知れない」と、もしもこれというエピソードがある。おそらくこれは征韓論で敗れた西郷の立場から、あとでつくられたものだろうが、なかなか意味深い。

そこでもうひとつ、もし西郷がこの使節団に加わっていたらどうなったのだろうか。征韓論分裂から西南戦争への悲劇はこらなかつたかも知れない。しかし、保守的だった大久保が帰国後はモダンになり、開明的だった木戸が逆に保守的になったといわれるから、この仮定のゆくえをみきわめるのは難しい。
明治四年七月の薩藩置県で、日本はともかく統一国家になった。それからわずか四ヶ月

後にこの岩倉使節団は出発したのだ。この時点で欧米をめぐりぬけることが、新しい国家づくりに緊急不可欠だと考えられたからである。彼らはそこで幕末以来の条約問題を打診し、近代国家の実体を目撃した。欧米における大国のあり方、小国の生きざまを見た。日本の開化がいかに皮相なものかも実感した。そこにはこれからの日本の選択肢が横たわっていたのである。

このとき、使節団が当初からロシアをめざしたとみるのはいささか早計すぎよう。関心の多くは、建国後百年の自主・独立の国アメリカであり、大貿易国・大工業国の島国イギリスであった。だが、フランスの文明に目をみはり、ついで訪れたロシアで、ドイツ帝国を形成した「鉄血宰相」ビスマルクからその体験をじかに聞いたことは強烈だった。

大国、米・英・仏の文明と、日本の開化とのあまりにも大きな落差が、小国から大国への道を歩んだロシアへの共感をよんだ、ともいえる。国王を尊敬して政府の権威を認め、また、公然と男女が抱き合うことの少ないこの国の雰囲気も無関係ではなかったのだ。
大久保と木戸は、使節団より一足さきに帰った。ときに留守政府は征韓論にわいていたが、使節団の帰国によって、すでに内定していた西郷の朝鮮使節派遣問題はどんでん返りになった。いわゆる征韓論の西郷・板垣退助・江藤新平らは憤然としていっせいに下野した。このとき、大久保・木戸らはなぜ征韓論にまっとうから反対したのだろうか。内治優先をめざしたというのが定説である。

では、なにゆえに翌年の台湾出兵に大久保は賛成し、その翌八年の朝鮮に於ける江華島事件には、木戸までが積極的だったのか。定説では解けないことになる。私は征韓論対立の背後には、米欧回覧中に奪われた内政の主導権をとり戻そうとする大久保らのねらいがあった、とみる。それのみではない。もし征韓論ベースにひきこまれたならば、外交の主導権すらも奪われかねなかったのだ。
この征韓論逆転劇の主役大久保の行動様式には、「待ち」と「決断」のみごとな組み合わせがあった。対する西郷にはそれに欠けるところがあった。だから、彼は遣韓使節の最終決定を一日だけのばすことに同意した。この一日が、西郷の運命を決したのである。(未完)

我が道を行く

六十五年(五〇)

西郷 天風



さて、神田クラブの吟風師歓迎琵琶会から数日後の日曜日、芝の愛宕山方面からめづらしい客がやって来た、小田原国尊、喜多村一城の両君である。それは吟風師歓迎会で私の住居を知った国尊君が、道順を忘れぬうちに下見分をと云う訳だったが、談話をまたま我々のグループによる琵琶会結成の相談となり、林竜山、貴島桃源の二氏を迎え、同人四名が中心となって、明年早々斯界に勇飛を試みることに決した。

ところが、平癒した筈の仲が当分は転地療養を必要とする医師のすゝめにより、九月下旬水戸市外大貫海岸に移住する破目となってしまった。

かくて温かい日ざしの海岸で、十月十一月と快適の日を重ねるうち、仲の元氣も全く元気に復したものの、折角の機会だ、もう一と夏をこの海岸で過ごしてから帰京するのによからうと、十二月以後の酷暑を水戸市に避けたのが暮も押つまった頃だった。

この水戸市には以前からの弟子達が居り、それ等の要望で臨時的に稽古を始めれば、県

の会計課長鳥居氏を筆頭に、係長級の入門者数名が現われ、勢い腰を据えなければならなくなつた。折柄昭和三年には済南事変が起り、同五年には、ロンドンに於ける日本海軍の縮少を迫る会議や満洲事変等々「日本の立場と国際関係」の微妙な前哨時代でもあって琵琶に対する一般人の関心も昂まりつゝあり、故に小田原君との約束がこの水戸に於て実を結ぶ結果となつた。曰く、「大日本琵琶国風会」その名は大袈裟ながら、中々有力な会が誕生した。

勿論メンバーは、小田原国尊、貴島桃源、林龍山、西郷天風の四名が中心となり、之に筑前系の小堀春孝、藤村文史、錦心流の伊藤栄太郎等、地元の演奏家を加え、賛助員には茨城県東の三部長(その頃は何処の県でも知事の下に、内務、学務、警務の三部あり)を初め、水戸市長及び市の有力者等併て七十余名、つまり朝野の名士を網羅した劇然たるもので、年三回の定期演奏会を規定し、県下所至の優遇を得たが、活動期に入ったのは翌四年の秋だったろう、其間に幾つかの特筆すべき話題のうち、水田錦心師と吉村岳城師の双壁を一室に会して琵琶楽の精神を世に示さんものと計画をたて、先づ錦心師には面識のあるのを幸いに私自身交渉に当り心よき承諾を得たが、吉村岳城師には、後輩の立場にある小生より平豊彦先生の高弟、林平春(春之助)氏の方が適任ならんと書状を以て依頼した。

この水戸市には以前からの弟子達が居り、それ等の要望で臨時的に稽古を始めれば、県

の位置が昔の平安京の鬼門に当たり山勢雄偉、四明嶽(標高八三九米)と大比叡(同八四八米)の二峰にわかれていた。

延暦七年(七八八)、最澄一伝教大師が桓武天皇のために根本中堂を建てて比叡山寺と呼び、天台宗総本山、総質問所として權威を持つようになった。日蓮、栄西、法然、親鸞など幾多の名僧も、この延暦寺で学問の修業をしたといわれる。のちに一乗止観院と改め、更に延暦寺と改称された。歴代天皇の尊崇あつく、延喜二年(九〇二)宇多天皇行幸以来、貴族達の登山するもの多く盛大を極め、南都に対して北嶺、園城寺の寺門に対し山門といひ、寺域二十四キロにわたり所領多く、財政も豊かであったから、遂には僧兵を養い暴威をふるって帝都を騒がした。

戦国時代、桶狭間の戦いに今川義元を破り、足利義昭を奉じて入洛した織田信長には、この比叡山の僧兵はうるさい存在であった。豪邁な白河天皇すら、加茂川の水と双六の賽の目、それに叡山の山法師の三つは意のままにならぬと歎かれたという。

元亀元年(一五七〇)織田信長は近江の浅井長政が、自分と姻戚関係(信長の妹お市の方は長政の妻)であるにも拘らず、越前の朝倉義景にくみしたので怒り、織田、徳川の連合軍三万と、浅井、朝倉軍一万八千が近江の姉川を挟んで死闘を繰返したこの地は、有名な死者二千五百、姉川の水は血に染った。

この戦で大敗した浅井朝倉勢は石山本願寺と手を結び、信長に激しく対抗した。しかも浅井朝倉側に延暦寺の僧兵が加勢したので、一層信長を苦しめた。

越前の朝倉が叡山を握れば、北陸道から京都への入洛コースが完成する。焦燥した信長は延暦寺に対し「浅井朝倉と手を切り、彼等を山から追い出せ」と激しく要求したが、多くの僧兵を抱え豊かな寺領を持つ寺側はこの要求を拒絶したので、遂に元亀二年(一五七二)信長の叡山焼き討ちが行われた。

当時叡山は美しい杉、松の木立と野鳥の囀りに囲まれた中に、三千の僧俗が住み、十六の峰や谷々には三千有余の堂塔伽藍に僧房があったと伝えられる。然し信長軍五万余が山上山腹に跳梁し、手当り次第に火を放つたので、煙は山中を覆い悪臭は十里四方に広がり、山門の勢力は全く地に落ちた。

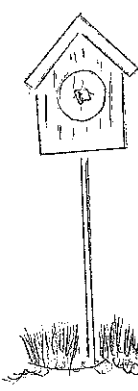
永禄十一年(一五六八)、信長は勅命を受け足利義昭を奉じて京都に入り、三好、松永を追って近畿に進出、石山本願寺に迫ったがこの時石山本願寺は顕如の時代で、阿波国三好党と結んで信長に対抗し、本願寺の籠城戦は天正八年迄約十年続いた。信長が天下統一の大事業半ばにして終つたのも、この戦に長年月を費したのが一因となった。

正親町天皇の天正八年(一五八〇)三月、天皇の斡旋によって和議成立、顕如は石山を開城して紀州驚森に退去、多数の信徒もこれに従った。

(完)

織田信長と比叡山

辻 旭 城



この太田町は、人口二万そこその小さい田舎町と聞いたが、中々会場が遠い、と思えば何と、それは顔見せと称して町廻りをするのがこの風習で、花火も我が一行の到着を知らせる相図だったとは、われながらうかつの次第であった。

かくて漸く会場に到れば、開演二時間余り前であるにもかかわらず、劇場入口の路地から木戸口まで、開場を待つ群集で人力車の押入る隙もない有様。結局徒歩で楽屋入りした次第だが、錦心師に随行の方々に、どなたか今日御存じの師がおられぬかしら。元私の門弟で、その当時芝の三田あたりで教授所を開いて居られた、松田静水師の許に指導をお願いした鈴木春吉も、此時、宗家の前で出演の業に浴した男だったが、帰京後宗家から直接「聚水」の号を頂いたと、感激の余り私の許へ飛んで来た。その彼も既に此世を去って早や二た昔にもなることであろう。

霊峰比叡山は略して叡山とも呼ぶ。京都市の東北に聳え、山頂を境として西半分は京都市左京区、東半分は大津市となっていて、そ

暑 中 御 見 舞			
<p>〒604 京都府中京区西ノ京西鹿垣町一 電話〇七五(八四一)二九九九番</p> <p>牧南水</p>	<p>〒621 龜岡市千代川町今津 電話〇七七(一一三)〇五六四番</p> <p>木村維水</p>	<p>〒606 京都府左京区岡崎徳成町一四 電話〇七五(七七七)四〇一六番</p> <p>荒木旭媛</p>	<p>〒168 東京都杉並区下高井戸五ノ二二 電話〇二(三〇三)五八九四番</p> <p>竹下翠風</p>
<p>〒421-31 浜松市積志町一八三一 電話〇五三四(三四)〇八七一</p> <p>小野鶴彦</p>	<p>〒164 東京都中野区中央一ノ三二ノ六 電話(三六一)七七四〇番</p> <p>仲川秀邦 (旭朋)</p>	<p>〒183 東京都府中市新町二ノ六八 電話〇四二三(六一)五六八四番</p> <p>坂本錦道</p>	<p>〒350 川越市南通町一ノ一一 電話〇四九二(二二)四四六一番</p> <p>熊木鼓水</p>
<p>〒670 筑前琵琶日本旭会 清真流吟詠会本部 西川旭操 門人一同 清真流会員一同</p>			
<p>出張所 兵庫県夙東郡安富名坂 (円山旭芳方) 電話〇七九〇(六六)二二四〇番</p>	<p>出張所 姫路市飾磨区構 (大西旭恵方) 電話(二二五)五六四六番</p>	<p>支部 福岡市南区横手町三ノ一一ノ (久保田旭園方) 電話(五九九)一五七一番</p>	<p>支部 長崎市上西山町九八 (福島旭仙方) 電話(二六)〇六五六番</p>

暑 中 御 見 舞			
<p>〒113 東京都文京区根津二ノ一五ノ二 電話(八二一)五七〇八番</p> <p>都派琵琶本部 冢元都 錦穂 外会員一同</p>	<p>〒011 秋田市土崎港中央四丁目九ノ 電話〇一八八(四六)三三三四番</p> <p>錦心流一水会秋田支部 星野雄水</p>	<p>〒520 大津市中央一丁目一番十号 電話〇七七五(二五)二二七番 夜〇七七五(二四)五〇六五番</p> <p>戸倉旭嶺</p>	<p>〒618 大阪府三島郡島本町桜井四丁目 電話〇七五(九六一)五〇四三番</p> <p>桜井旭会长 秋元旭晨</p>
<p>〒156 東京都世田谷区経堂三ノ三七一 電話(四二八)七四八三番</p> <p>邦楽名絃会 西郷天風</p>	<p>〒625 舞鶴市朝日通五條東八 電話〇七七三(六四)〇五一八番</p> <p>日本旭会舞鶴琵琶協会 琵琶教授所 高橋旭洋</p>	<p>〒249 逗子市桜山三ノ四ノ五三 電話〇四六八(七三)二二二〇番</p> <p>錦心流琵琶教授 鉦水会 平野鉦水</p>	<p>〒523 近江八幡市正神町一〇 電話〇七四八三(二二)〇五四七番</p> <p>錦心流琵琶・国風流詩吟教授 野田勇治郎 (彰水・国堂)</p>
<p>京都琵琶協会 〒608 京都市北区平野宮西町六四 電話(四六二)一四二三番</p>			
<p>平峰水彦</p>	<p>木木阪荒古牧山山安矢野梅植田若戸戸林馬伊</p>	<p>井口内師下村本木谷 岡本住吹田原村中宮田倉田場吹</p>	<p>春高媿旭皇維一旭竟南旭嶺旭旭彰旭冥鵬旭旭旭鴨正 嶺昇水富水水峰媛水水清舟康津水濤水水登公嶺城水陽</p>

暑 中 御 見 舞

<p>〒237 横須賀市船越町一ノ五〇 電話(六一)三六七六番</p> <p>山田 幻水</p> <p>横須賀琵琶連盟会長</p>	<p>〒250-04 神奈川県足柄下郡箱根町強羅 一三〇〇紅葉閣 電話〇四六〇(二)二一一二番</p> <p>押川 旭葉</p> <p>筑前琵琶橋会</p>
<p>〒790 松山市柳井町一丁目 電話(二二)二三一七番 松山市立花町三丁目五ノ六番 電話(四一)三八八七番 閑居庵</p> <p>佐藤 晃絃</p> <p>日本琵琶楽協会々員 愛媛琵琶連盟顧問</p>	<p>〒359 所沢市日吉町十七ノ十三 電話〇四二九(二)三一七五番</p> <p>平井 洲誠</p> <p>日本琵琶楽協会企画部 錦心流琵琶大館派教授</p>
<p>〒520 大津市逢坂一丁目二ノ三一 (蟬丸神社前) 電話〇七七五(二四)九三二八番</p> <p>伊藤 旭暢</p> <p>松岡 旭岡</p>	

暑 中 御 見 舞

<p>〒198 東京都青梅市大門七八七ノ一 電話〇四二八(二二)四四五八番</p> <p>岡部 錦蝶</p> <p>薩摩琵琶錦水会 正絃会・四明会会員</p>	<p>〒040 函館市青柳町二六ノ一四 電話(二二)八三六五番</p> <p>高橋 蘇水</p>
<p>〒570 守口市緑町土居団地十一号 電話〇六(九九二)五六二五番</p> <p>小川 吟水</p> <p>小金西寄村 北寄村 桜田 山田 増田 大阪吟水会</p> <p>正和 吟系 芳水 玄水 靖水 甫水 水水</p>	<p>〒601 京都市南区吉祥院中島町三〇 電話(六九一)〇二二八九ノ</p> <p>琵琶三美会</p> <p>會長 矢吹 旭美津 田中 旭水 富山 旭富貴 西村 旭清 一坊 寺人 同</p>
<p>〒420 静岡市西草深町二ノ二〇 電話〇五四(二五三)二四七一番</p> <p>赤心流 鶴翁</p> <p>吟詠 赤心流 琵琶 赤心流 家元</p>	

暑 中 御 見 舞	
〒617 向日市西向日鶏冠井町山端 電話 (九三一) 一六九一 二番地 梅原旭濤	〒171 東京都豊島区高松三ノ一二 電話〇三(九五五)三六四五番 筑前琵琶 藤巻旭鴻
〒238 自宅 横須賀市富士見町三ノ一七 電話〇四六八(二二)三七七五番 〒124 教室 東京都葛飾区堀切二ノ六〇ノ三 清和荘二階一五号 電話〇三(六九四)九五七九番 史城普門義則 社団法人東洋音楽学会々員 邦楽木犀会相談役	〒678 相生市相生二丁目一四ノ一七 電話〇七九二(二二)五一八番 筑前琵琶 日本旭会 師範田中旭昇 〒653 神戸市長田区梅ヶ香町一ノ一五 電話〇七八(六七)〇〇一八番 師範浜本旭好
〒544 大阪市生野区小路二ノ二六ノ二 電話〇六(七五三)〇三二五番 高千穂旭楓	〒537 大阪市東成区神路三ノ八ノ一八 電話〇六(九八一)二二九一四 夜間〇六(九七二)二七七八番 榊本旭風

暑 中 御 見 舞	
〒160 東京都新宿区三栄町十六 電話 (三五二) 四五九一 日本旭会 大師範 押田旭窈	〒173 東京都板橋区板橋一丁目二十一 番四号 電話 (九六一) 一二〇〇番 池上作三
〒570 守口市緑町土居団地一ノ号 小川吟水方 電話大阪(九九二)五六二五番 錦心流琵琶 一水会大阪支部 会員一同	〒606 京都市左京区下鴨夢會町一六 馬場鴨水方 電話〇七五(七八一)三〇五〇番 錦心流琵琶 一水会京都支部 会員一同
詩吟部 滝沢吟 溝脇吟 高原吟 田中吟 村上吟 山田吟 木下吟 堀宮吟 吉田吟 川上吟 吉田吟 山崎吟 田村吟 楊村吟 竹内吟 反町吟 三浦吟 松野吟 門紫吟 願部吟 支水吟 蓮水吟 幹事 " " " "	〒662 西宮市羽衣町七ノ三四 三浦蓮水方 電話〇七九八(三三)五八八七番 一水会神戸支部 詩吟部 蓮水会 事務所 松野紫雲 浦紫雲 三浦紫雲 反町紫雲 竹内紫雲 楊村紫雲 田村紫雲 山崎紫雲 吉田紫雲 川上紫雲 吉田紫雲 山崎紫雲 田村紫雲 木下紫雲 堀宮紫雲 村上紫雲 田中紫雲 高原紫雲 滝沢紫雲 溝脇紫雲

暑 中 御 見 舞

〒348
越谷市大成町一ノ二三九二
電話〇四八九(八二)
一二四一三番

日本琵琶振興会本部
鈴木流泉

〒651
神戸市葺合区上筒井五ノ四ノ二
電話〇七八(二二)一六一番

筑前琵琶旭堂会
旭会大師範
柴田旭堂
宝塚花組
上原まり
(旭艶)

〒453
名古屋市中村区荒輪井町二ノ
十八六棟六〇六号(伊藤方)
電話〇五二(四二二)三八二番

〒141
東京都品川区西五反田四ノ八ノ
電話〇三(四九一)八三三番

琵琶芸術同好会
四絃富士会
前田秋声

〒600
京都市下京区四条通高倉西南角
(大和銀行京都ビル8F)
電話〇七五(二三一)四〇三番

松本明重

日本民主同志会中央執行委員長
宗教世界救世教外事対策委員長
法人

〒605
京都市山科区日ノ岡堤谷町七五
電話〇七五(五九二)四〇四番

暑 中 御 見 舞

〒154
東京都世田谷区太子堂二丁目
二番八号
電話 (四一四) 六五七八番

宮崎直二

〒569
高槻市津之江町二丁目十二ノ三
電話〇七二六(七一)六五八〇番

筑前琵琶橋会宗範
山崎旭萃
大和流琵琶吟家元
山崎光椽

〒370-12
群馬県高崎市岩鼻町局前二四七
電話〇二七三(四六)二〇〇六番

全朗協関東副部長
群馬琵琶連盟会長
テイチクレコード専属
日本錦古流総本部会長
宗家針谷錦古

暑 中 御 見 舞

薩調晴風会

会長

浅野晴風

〒161 稽古所 中野区中野二ノ二五ノ六
電話(三八一)八九二二番
自 宅 新宿区下落合一ノ一
トキワパレス六七〇五
電話(三六二)〇〇六一番

錦心流一水会多摩支部長
各流派琵琶武絃会事務所

伊藤磐水

〒184 東京都小金井市本町一ノ八ノ五
電話〇四二三(八一)三三四四番

筑前琵琶日本協会
大阪中央部 旭会

塩谷旭洲

〒535 大阪市旭区中宮四ノ一二ノ一四
電話〇六(九五二)九二九四番

大井錦淀

〒369-12 埼玉県大里郡寄居町大字寄居
五五八
電話〇四八五(八一)一七四〇番

日本琵琶

三位研修同志会本部

伊集院鼓城

外同志一同

〒181 東京都三鷹市上連雀二ノ九ノ
十二号 大村方
電話〇四二二(四四)一四一六番

鈴木誉士

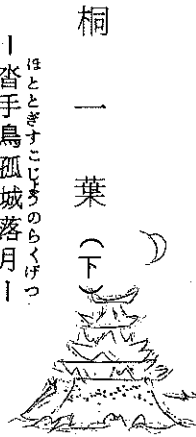
〒176 東京都練馬区豊玉北五ノ一
芸の友社
電話(九九一)〇三六三番

北中旭蝶

〒671-20 姫路市花田町高木一八ノ四
電話 姫路(二三)七一九五番

阿部勝水

〒454 名古屋市中川区中島新町
中島住宅五ノ四〇一



桐一葉 (下) 榎とぎすこじのらくくげつ
―沓手鳥孤城落月―

郡 惠 一

この折、主君に殉じた中川十六騎の中に住友財閥の遠祖・入江土佐があり、後の武家茶開祖・吉田織部は、直前に茨木へ引き返して運よく討死をまぬがれた。そして、中川氏の最後の居城豊後竹田(大分県竹田市)の岡城趾に、滝廉太郎がモチーフ(楽想)を得た「荒城の月」のメロディは、往昔の茨木侍たちの栄枯盛衰を今の世に歌い続けている。とまれ、大岩山玉砕の悲報が総大将秀吉にもたらされるや、七人の若侍が槍をふるって逆襲、激しく柴田勢を追い落とし、世に「賤ヶ岳七本槍」と謳われるに至ったのだが、その中に片桐助作という勇士があり、彼こそ後に茨木城主となった「片桐且元」その人にかからぬ。

片桐氏は信州伊那郡片桐村の出身とされ、江州へ移って片桐直貞の時に小谷城主浅井長政に仕え、その長男として弘治二年(一五五六)、伊香郡高月村で生をうけたのが、且元なのである。そして浅井氏滅亡の後、且元は秀吉の麾下として中国攻めから山崎合戦にも従い、前記の如く賤ヶ岳では功名を挙げ、天

正十三年に至って従五位下・東市正(とういちのかみ)に任ぜられた。

かくして慶長六年(一六〇一)摂州茨木十一万五千石の大名となり、太閤秀吉の遺命による秀頼の後見役をも兼ねたが、ついに同十九年、坪内逍遙により戯曲化された「桐葉」の舞台へと、運命の歴史は巡り行くのであった。

且元が茨木へ退去した慶長十九年十月一日、京都所司代板倉勝重よりその報を受けた大御所徳川家康は、直ちに関東の全軍に対して大阪征討の命令を発した。そして同月十一日、自らも駿府(現静岡)を発ち、やがて総勢三十万の大軍は大阪城へと津波の如くに押し寄せ、翌十一月十九日「大阪冬の陣」の火蓋は切って落とされたのである。

然しながら、大阪側の応戦は激烈をきわめ、かてて加えて豊太閤が、千万年も願って築いた難攻不落・天下の堅城、さすがの徳川勢も攻めあぐみ、一ヶ月後の十二月二十日一応の和議が成立する運びとはなつた。

明けて元和元年(一六一五)三月十二日、大阪再挙の旨が家康へ届くに及び、四月六日あらためて徳川全軍に大阪再征の命が下された。そして同月二十九日、今度は城外へ討つて出た豊臣勢と野外戦を展開することとなり、ここに「大阪夏の陣」は勃発したのである。

しかし、さきの和睦条件による外堀破壊の結果、さしもの堅城も裸同然となり、大阪方必死の防戦も奏功せず、遂に五月七日勝利は

ほぼ関東東方のものとなつたが、片桐且元は家康との約束により淀君、秀頼母子を救うべく病気の身をおして修羅への道へ向わんとする。しかし天王閣は程なく焼け落ち、千姫だけがまづ救出される。そして翌八日、秀頼らは天王北側の山里曲輪に移つたが、千姫を失つた淀君は狂乱し、見かねた秀頼は淀君を殺そうとまで計る。

一方、且元が秀頼救出におもむく途中、徳川方井伊勢は山里曲輪のこうじ庫を砲撃するに及び、秀頼、淀君らはもはやこれまでと自害して果てた。かくして且元の豊家安泰への願いはすべて水泡に帰し、遂に彼自身も本丸の楼門前で絶命するところとなり、折から入城して来た家康は、且元の長年に亘る苦衷をあわれむのであった。

このように大阪落城を舞台として豊家滅亡にまつわる且元の悲劇を描いたのが、坪内逍遙の「沓手鳥孤城落月」(三幕六場)であり、「桐一葉」続編として明治三十八年大阪角座で初演され、新歌舞伎の代表的作品となつた。

ともあれ、興亡流離は戦国の世のならず、「大阪冬の陣、夏の陣」もその例に洩れず、「摂州茨木城」も大阪落城の二年後に廃城の運命に見舞われて、幾星霜にもわたるつわものどもの歴史を閉じた。そして今一本丸跡には茨木小学校の児童たちの歌声が平和裡に響き中川氏ゆかりの「荒城の月」の声を主調低音は、過ぎにし昔を奏で続けている。(終)



続・私の音楽ノート(七)

水藤 五郎

田中コレクション考

先日、京都の田中鵬水氏の琵琶コレクションを参観する機会に恵まれました。万国博が開かれた折、田中氏の御住居をお訪ねしたことがありましたが、その時の氏のコレクションは未だ楽器愛好家の新人の感でありません。則ち、二十数面の筑前琵琶を所有している、多少の人形と、琵琶を型どった陶器類を集めている段階であったからでした。そして八年あまりを経た今日、氏のコレクションは音楽史上に足跡を残し得る、偉大且つ貴重な博物室になっていました。

毎々紹介されている様に、楽器の数にして百五十面、その他、琵琶を抱いた弁天様や法師、美婦人等の人形や仏像、又、陶磁器、掛軸等が百点、その一大コレクションを前にして、私は思わず嘆息をもらしました。時価数千万、いや一億円以上と考えられるなど云う話題は、このコレクションの一面面にか過ぎません。

コレクションはそれ自体に価値があるのであって、価格表示する行為はその真の価格の一割にも充たないでありましょう。

古くは楽琵琶、新らしくは筑前の五絃まで、多岐にわたる器種であるこのコレクションに、敬畏と、絶大なる称賛をした私でしたが、それを如何に発展させるかについて多少の奇偶を覚えました。如何に発展させるか云う表現は不適当かも知れません。しかし、このコレクションを見て、素晴らしい立派だ、と云う驚嘆語を発し、田中氏の努力をたたえ秘かにコレクションの時価を推計して、田中氏の財力に羨望にも似た感慨を抱く多くの人が、その翌日には全く無関心になってしまひ、コレクションの存在すら忘れてしまひました。淋しいことです。勿論、それが一般の鑑賞者であるならば致しかたないとしても、琵琶人を自称している人であるならば、やはりこのコレクションの存在を鑑賞し、驚き入るばかりでなく、それを更に、より良い内容にするべく協力をして欲しいと思うのです。

今日、楽器の入手が困難であることから、琵琶の普及を危ぶむ声もあります。なる程、琵琶の製作費が最低十五万円位であることを考えると、それも無理からぬ意見とも思われます。又、製作者の数が限定されていることも問題であります。たゞ、これは限定と云うよりは、少数しかない云うのが適当であります。楽器製作は芸術分野に於いては二次的なものでありますから、その芸術自体が普及するならば、自然と製作されるものでありますから、ある段階ではそれ程憂慮することもないのです。しかし、その芸術自体が滅び

てゆく一方となると、やはり楽器製作、楽器保存についても一考を要するのであります。今日の琵琶楽に於ける楽器の是非について、もっと研究が為されても良いと思います。ギターの普及があつてから久しくなりますが、その因は楽器の手がさるさにあります。が、そののみではなかつた様で、ギター以上に手軽な筈のウクレレが、さしたる人気を得ていないことでも判ります。

そのギター人口は一時の爆発的数字ではないとしても、恒久的な愛好者を得ている様で、ピアノと共に日本の現代楽器となつています。則ち、ピアノ、ギター共に大量生産楽器なのであります。大工場で作られ出される音なのであります。勿論、高級品になれば、部分的には手作りの物もあるでしょうが、最終的には生産品なのであります。

デパートに陳列されたギターやピアノを見ると、私は現代音楽のバイタリティを感じるのですが、反面、画一化された音楽、いや、音を感じます。厳密に調べれば各楽器固有の音質はあるのでしようし、楽器は演奏者に依つて、見違える程に変わります。ですから、それ程考える問題ではないのかも知れませんが、田中氏のコレクションを眼前にして、私は手作りの楽器が如何に大事であるかを知りました。

薩摩琵琶東西合同一泊弾交會

その音質はなかなか素晴らしい、製作時から五十年を経た今日に至って、益々冴えた音を発しているの感がありました。その他、製作者名の異なる同形の楽器もありましたが、ひとつひとつそれぞれの趣がありました。演奏者にとつて、素晴らしい楽器を手にする事は百万の味方を獲得することであり、それは書家の手に良筆があることに通じるものがあります。

今日は限られた製作者に依る楽器しか手にすることが出来ない我々ですから、得られる音はつい限られてしまいます。これをなんとか克服して、多くの製作者が現われる斯界にしなければならぬのです。それを思う時、田中氏のコレクションが一層価値あるものであり、楽器製作者の魂をも集めたコレクションでもあります。

新らしくこゝに集められる楽器が、過去の楽器に劣らぬものであるか否かは、結局我々演奏家が責任を負わなければならぬのでしよう。それはとりも直さず我々自身の為なのです。公の団体である日本琵琶楽協会にとつて、京都の一隅にあるこの楽器群を、より以上に価値あるものとする努力が今日の急務でしよう。

京都四明会、東京正絃会、浜松鶴彦会合同の恒例一泊会は八束一峰、仲川秀邦、関口竜城三氏の司会で五月二十二、三(日・月)の両日熱海梅園内の香林亭で開催された。香林亭は明治二十二年甲州の富豪雨宮敬次郎氏が宮内省に寄附し現在熱海市が管理しているが初川の小溪流を庭園に取り入れ自然美を生かした名園で梅樹数千株が繁茂し逍遙に好適で一年振りの催しは出席者相互の旧交を温め、第一日は十三時から十七時まで、第二日は十七時から十七時まで弾交が繰返され意味深い集まりであつた。桜井の駅、佐藤鶴春、桶狭間中村鶴柳、花紅葉、竹原花子、木崎原、島津天嶺、桶狭間、松永琴城、足柄山、佐野智、藤原、大石鶴倫、俊寛、伊勢谷安江、旅順開城、栗原雨竹、彰義隊、歌大富士岳、絃平井春嶺、鉢の木、三上鶴浄、乃木大将、石川晶祥、新曲熊野、柿沢算峰、小教盛、伊藤鶴麗、俊寛、青島鶴瑛、弁内侍、高橋愛子、元寇、岡尾鶴城、足柄山、若林鶴山、藤原、古家絃風、滝口入道、伊集院、坂本、龍馬、小野鶴彦、川中島、清川風舟、小教盛、上八束一峰、城山、柏木篁道、小教盛、遠藤鶴東。以上二十七曲演奏のあと記念撮影に引続き会食、談笑裡に次回を約して散会した。(伊集院城城記)

竹生島神社に琵琶献奏

琵琶湖上に浮かぶ竹生島には琵琶の神様弁財天を祭る竹生島神社があり今年には六十年ごととに営まれる大祭の年で六月一日から二十一日まで各種芸能が奉納されたが、琵琶は十一日(土)十一時、十三時の二回京都の田中鵬水氏(絃矢吹旭美津女史)が弁財天の御前で「弁財天」「大楠公」を献奏された。会堂には神官や氏子六十余人が参列し堂外には参拝の善男善女多数が倍聴していた。

京都琵琶協定会定期茶話會

①六月十二日(日)昼一時神戸市五宮平野會館会員安住旭康女史の斡旋で開催したが事故欠席者多く今一息という雰囲気であつた。しかし附近在住の琵琶ファンお二人も来遊され夕刻まで愉快に過ごした。当日は神戸附近の海浜を遊覧船で見物する予定であつたが時間の都合上中止となつた。出席者と演奏曲目は平井春嶺、元寇、田中鵬水、大楠公、矢吹旭美津、同(下)、梅原旭瀧、安宅の関、安住旭康、別れの盃、植村實水、茨木。外に戸倉旭嶺、古谷寛水両氏出席。

②七月三日(日)昼一時會員矢吹旭美津女史宅梅雨晴れの三十四度という酷暑を物ともせず伊吹正陽、馬場鴨水、戸田旭公、田中鵬水、梅原旭瀧、矢吹旭美津、山岡旭清、牧南水、古谷寛水、荒木旭媛、木村維水、鹿師旭富、水内噴水、植村實水各會員の外近江八幡市の野田杉水氏出席。去月京都商工会議所ホールに於て開催演奏会の収支計算報告を牧会計理事が行ひ続いて植村實水の紹介により野田杉水氏入会希望の件を附議して一同承認の後弾交に移り川中島、水内、舟弁慶、野田、湖水渡り、田中、叢雲、山岡、白虎隊、木村、西郷隆盛、鹿師、扇の的、牧、舟弁慶、植村、



山崎旭琴門下の一泊研修懇親會

六月九、十の両日箱根強羅の押川旭葉女史方に旭琴師以下師範、教授級三十余人が集まり後進指導者として橋会派の基礎的節調を確実に再認識する目的の研修に併せて一泊懇親會が催され二代宗家旭琴師も臨席の外部外者鈴木流泉、田中鵬水両氏も同席された。